

さくらそう通信

VOL.34 2025.3.31



サクラソウ自生地で学ぶ植物の世界

国指定特別天然記念物田島ヶ原サクラソウ自生地では、サクラソウをはじめとした様々な植物が生育しています。その中には貴重なものも多く含まれ、都市近郊の貴重な自然環境として重要な価値を持っています。

自生地の植物には、それぞれに類縁の遠いものも多く含まれていて、それぞれのグループがどのような違いを持つか比較しながら見ることもできます。植物の中のグループについては学習する機会もものですが、なかなかイメージも湧きにくいものもあると思います。自生地で植物の大きなグループそれぞれの植物を観察することで、植物に対する理解が深まったり、地域の自然に対して関心が高くなったりするかもしれません。

今回は、植物の大きなグループに着目して自生地の植物を観察してみましょう。



▲様々な植物とともに育つサクラソウ、中にはサクラソウとは類縁の遠いものも

被子植物

まずは、被子植物というグループです。花をつける植物のグループで、自生地で最も多く見かけ、種類も豊富です。サクラソウ、ノウルシなどの自生地を代表するような植物は、ほぼすべてこのグループに属しているものです。

自生地で多種多様な花が見られることからわかるように、被子植物にも多くのグループが存在し、自生地内でも様々なグループを観察することができます。今回はその中のいくつかを見ていこうと思います。

モクレン類は、原始的な被子植物と考えられているグループで、自生地では、コブシやシロダモなどが含まれます。

コブシの花では、原始的とされる特徴が観察しやすくなっています。雄しべ、雌しべを観察すると数が多数あり、らせん状についていて、さらに花弁もそれに続いてらせん状についています。これは原始的な被子植物の特徴とされ、化石で見つかるものにも同様の特徴が見られます。



▲コブシの花

次はキク科の植物です。

キク科は被子植物の中でも多くの種が知られていて、自生地でも多くの種類が見られます。キク科には、人の背丈を超えるような大きさになるタカアザミや、非常に小さなトキンソウまで大きさも見た目も多様なものが見られます。このグループに共通する特徴として、多数の小さな花が集まった頭花^{とうか}と呼ばれる構造を持つ点があります。自生地では、季節を通してキク科の植物が見られますが、花を見るといずれも頭花を持つ様子が観察できます。



▲自生地の様々なキク科の植物
左から、タカアザミ、トキンソウ、カントウタンポポ

シダ植物

次は、シダ植物です。孢子で増える植物のグループで、自生地には多くの種類はありませんが、複数のグループが観察できます。

シダ植物の中のグループは、それぞれ植物の進化を考える上で重要なグループです。

自生地で見られるシダ植物は、トクサ類、ハナヤスリ類、^{はくろう}薄囊シダ植物のグループのものが
あります。

トクサ類は、自生地には1種類スギナが見られます。春に出る孢子茎は
ツクシと呼ばれて知られています。このグループは他のグループと異なり、
目立った葉が発達しない点が特徴です。



▲スギナの
孢子茎（ツクシ）



▲ヒロハハナヤスリ

ハナヤスリ類は、孢子を付けない葉が1つと
孢子を付ける葉が1つ穂のように付いたものが
セットになっている姿が印象的なグループで
す。一般にはあまり見かけることの少ないグル
ープですが、自生地では多数生息し、詳細に観
察することができます。

薄囊シダ植物は、一般的にイメージされるシダのグループで、自生地にはカニクサ、コウヤワラビな
どが生息しています。巻いた新芽や葉っぱの裏に孢子囊がつくことが特徴のグループです。

また、前葉体と呼ばれるシダの繁殖に関わる重要な段階のものが見られる場合もあり、このグループ
のライフサイクルを観察することができます。



▲自生地の薄囊シダ植物
左から、コウヤワラビ、カニクサ、薄囊シダ植物の一種の前葉体

コケ植物

最後は、コケ植物です。このグループも孢子で増え、比較的単純な形態で小型です。

自生地では散策路の地上や、樹木に付着して生息しています。コケ植物には、ツノゴケ類、タイ類、セン類という三つのグループが知られていて、いずれのグループも自生地で観察することができます。

ツノゴケ類は、縁が波打った平たい葉の様な姿をしていて、孢子を出す部分は角の様な形でそこから飛び出しています。自生地では、ツノゴケモドキなどが散策路の地上に見られます。



▲ツノゴケモドキ

タイ類はツノゴケ類に似た葉の様な姿のもの、茎と葉の区別があるもの、さらにその中間の様な茎と葉の区別があるが明確ではないものが含まれるグループです。タイ類は、散策路の地上に生育しているものや、樹木に着生しているものが見られます



▲自生地のタイ類

左からハタケゴケ（葉の様な形の物）、フルノコゴケ（茎と葉の区別があるもの）
ウロコゼニゴケ（茎と葉の区別があるが明確ではないもの）

セン類は、茎と葉がはっきり区別できる姿のもので、詳しくは孢子を出す部分などの形がタイ類とは異なっています。セン類も散策路の地上や樹木に着生したものが見られます。



▲自生地のセン類

左からコゴメゴケ、コウライイチゴケ

自生地の植物から垣間見る植物の世界

自生地には、ご紹介したように大きなグループで見ても様々なものがあります。それぞれのグループを観察することで、はるか昔に起源を遡ることができ、現在に至るまでの植物の歴史に思いを馳せることもできます、また、単純な形であったり、複雑な形であったりを比較することで、植物の多様性について学びを得ることができます。

田島ケ原サクラソウ自生地は、貴重な自然環境の残された場所として重要な場所ですが。

自生地の多様な植物を、植物の広い世界を垣間見るために観察してみるというのも意義の深いことではないかなと思います。今回紹介したような植物達は、自生地では、サクラソウをはじめとした華やかな花々に隠れているような植物も多くありますが、サクラソウが咲く季節以外に観察したり、視点を小さな植物や目立たない植物に合わせてみると出会うことができます。植物の広い世界を感じることでさらに地域の自然環境に愛着を持つことができるのではないのでしょうか。



▲田島ケ原サクラソウ自生地の全体の様子

さくらそう通信 34号 発行日：令和7年3月31日

編集・発行：さいたま市教育委員会 さいたま市浦和区常盤 6-4-4 ☎048-829-1723（文化財保護課）